

在 外 研 究 報 告 書

派遣者氏名等	村上 大輔（経済経営学部・准教授）
研究課題	チベット・ヒマラヤ地域の宗教文化に関する社会人類学的研究
派遣先	英国オックスフォード大学 東洋学学部／チベット・ヒマラヤ研究センター
派遣期間	令和4（2022）年4月1日～令和5（2023）年3月31日 1年間

報告者は2022年度の一年間、英国オックスフォード大学東洋学学院 (Faculty of Oriental Studies, University of Oxford) に招聘研究員として所属し、報告者の研究テーマであるチベットの宗教文化に関する社会人類学的研究に従事した。同大学は世界有数の東洋学の研究拠点として数百年の歴史があり、21世紀の現在でも世界中から著名な研究者たちが集い、多様な最新研究プロジェクトが推進される欧州の中核的研究拠点となっている。報告者は同研究センターに所属することで、オックスフォード大学ならびに世界各国からの研究者たちと学術交流を深め、報告者の科研「基盤研究 (C)」(課題番号 22K00076) および「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」(課題番号 20KK0021) の一部を遂行することができた。

具体的には「チベットの民間信仰の一般的特徴に関する試論 ～ラグツェグの儀礼から～」(An Essay for Comprehending Tibetan Religious Rituals — Analysis of Soul-retrieval Ritual —)の論考を執筆し、『国立民族学博物館研究報告』に査読の審査に提出した(2023年4月)。また、上記プロジェクトの方法論に関する理論的論考として「民俗学のフロイディアン・メソドロジー」(Freudian Methodology of Japanese Folklore Studies)のドラフトを執筆し、今現在、日本語の諸論文を取り寄せ、最終原稿の完成に向けて尽力しているところである。本論文も査読付きの学術雑誌に投稿予定である。

オックスフォード大学にはBodleian Libraryという世界有数の図書館があり、報告者はここでのライブラリー・リサーチを通して、社会人類学、神話学、チベット学、民俗学その他関連領域の論考および資料を多数収集するにいたった。日本国内の大学図書館や博物館などでは獲得の困難なものばかりであり、今後、その精読を通して報告者の研究テーマに沿った論考を執筆するよう努力するつもりである。

報告者は本年度の夏に、「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」(課題番号 20KK0021)の研究遂行のためカトマンドゥ(ネパール)に赴く予定である。また、報告者個人の科研「基盤研究 (C)」(課題番号 22K00076)により、本年度の2月にムスタン王国(ネパール)の辺境をフィールドリサーチする予定であり、これから一年近くかけて準備していく予定である。

今回のオックスフォード大学での在外研究、および上記二つの科研のプロジェクトの成果として、『国立民族学博物館研究報告』の論考(査読付き)、本学の『論叢』の論考、さらにはチベットの民間信仰に関する研究図書の出版(法蔵館出版社(京都))を計画している。さいごに、報告者がこれから取り組む予定の具体的な研究テーマを三点記しておく。

- ・チベットの伝統建築の空間性に関する精神分析的考察 ～古代と中世の比較から～
- ・チベット国家創生神話「大地に横たわる羅刹女」の言説について
- ・チベット自治区ロカ地方における聖地誌(gnas yig)と巡礼実践に関する研究